「確かな学力」の育成についての提言（案）

H29.6.6

上益城教育対策会議

1　小学校並びに中学校へ

【　上益城の現状と課題　】

○　管内全体の学力については、諸調査の結果から向上が見られるが、全国学力・学習状況調査や県学力調査結果では、基礎的・基本的な知識・技能の定着と思考力・表現力等の育成に課題が見られる。

○　意欲的に学習に取り組む児童生徒が多いが、自らの力で課題を解決する意欲や主体的に学ぶ姿勢が不足している児童生徒も少なくない。

○　中学校区での学校間の連携は進んでいるが、更に協力が必要と感じている教職員が多く、育ちの連続性や学びの連続性を踏まえた中学校区での連携の一層の充実が求められる。

○　各教科等の年間指導計画に言語活動が位置付けられ、ＩＣＴを活用した授業にも積極的に取り組む学校が徐々に増えている。今後さらに各学校で、ＩＣＴ活用を含めた教師の授業力向上が求められ、言語活動の充実に向けた具体的な研究実践を深めていく必要がある。

○　基本的な学習態度の定着に顕著な成果を上げている学級・学校がある。教員の大量退職期に入り、学級経営・学習指導のノウハウを若い教員へ伝える共通実践や校内研修の充実が必要である。

【　提　言　】

（１）学力向上に向けた検証改善サイクルの活用

全国学力・学習状況調査と県学力調査の結果分析を基にした検証改善サイクルを活用して、指導課題と改善策を全校で共有し、日々の授業を改善しましょう。

（２）互いの授業実践に学ぶ校内研修の工夫

年間に全教員が最低１回は教科の研究授業を行うとともに、日々の授業に関する指導法を交流するＯＪＴなど校内研修を工夫して、若手教員の指導力を向上しましょう。

（３）「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業実践

これまでの教育実践の蓄積をしっかりと引き継ぎ、①知識及び技能、②思考力、判断力、表現力等、③学びに向かう力などが、バランスよく育まれるよう、次の３つの視点で授業を点検し、改善しましょう。

◇　児童生徒が見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているか。

◇　相互交流や自己内対話の多い思考・発信型の学習で、自らの考えを深め広げる対話的な学びの過程が実現できているか。

◇　問題発見・解決の学習プロセスの中で、児童生徒が互いの気付きや疑問、間違いを生かした深い学びの過程が実現できているか。

（４）学習内容の定着を図る指導の徹底

１時間の学習で児童生徒に身に付けさせる力を明確にして、次の２つの事項を徹底しましょう。

◇　「何を学ぶのか」が分かる『めあて』と、「何を学んだか」がわかる『まとめ』を板書する。

◇　「〇〇が分かった」「〇〇ができるようになった」と実感できる適用問題（練習）や振り返りの時間を確保し、到達状況を評価する。

（５）ＩＣＴの活用

学習指導要領に示されたＩＣＴ活用例を参考に、学習指導の準備と評価のための教師によるＩＣＴ活用、授業での教師によるＩＣＴ活用、児童生徒によるＩＣＴ活用を推進しましょう。

（６）基本的な学習態度の育成

挙手をする、返事をする、立つ、座る、読む、書く、聞く、待つ等の基本的な学習態度を全教職員が継続して育成し、落ち着いて学習できる”学びの場”をつくりましょう。

（７）中学校区内の連携

中学校区内の幼・保、小、中（高）で目指す児童生徒の姿を共有して、育ちの連続性や学びの連続性に配慮した指導や支援の連携を図りましょう。

家庭や関係機関、地域の方と協力して、自主学習等の学習習慣や読書の習慣をはぐくむ取組をしましょう。

教育活動の理解と協力を得るために、授業公開や学校行事等を校区内に周知し、参加を呼びかけましょう。

２　家庭・ＰＴＡへ

【　上益城の現状と課題　】

〇　学校教育や地域の取組に協力的な保護者が多い。

〇　我が国の課題である人口減少・過疎化や少子高齢化の進行等について上益城郡は特に顕著な状況にある。さらには、産業構造や就業構造の変化に加えて平成２８年熊本地震の被害が、放課後や休日の子どもたちの生活に大きな影響を与えており、家庭や地域の教育力を発揮しづらい状況にある。

〇　スマートフォン等のＳＮＳ機器をもつ児童生徒が増え、ゲーム機器も含めた使用時間が長時間に渡る児童生徒が少なくない。

【　提　言　】

（１）くまもと家庭教育支援条例の理解

家庭は、子どもの健やかな育ちの基盤であり、すべての教育の出発点です。「くまもと家庭教育支援条例」の趣旨を理解し、ＰＴＡ等で子どもの生活習慣の確立、自立心の育成、心身の調和のとれた発達を図る取組をしましょう。

（２）夢や目標をはぐくむ

親子の絆を深める意味からも、毎日の学校の様子やこれからの進路、将来のことなど、親子で話し合う時間をつくりましょう。

子どもと一緒に家事をしたり、余暇を楽しんだりする親子の触れ合いの機会を意識して設け、子どもの成長や考えを理解しましょう。

（３）基本的な生活習慣や学習習慣、学びへの関心・意欲の育成

学校と連携し、家庭での学習環境を整え、次のような取組を通して学習習慣や学習への関心・意欲をはぐくみましょう。

◇　子どもが家庭で学習しやすい雰囲気づくりのため、家庭学習中はテレビを消したり、音量を下げたりしましょう。

◇　家庭学習の手引や家庭学習ノートなど、学校から配付される資料等を活用し、家庭学習の習慣化を図りましょう。

◇　親子読書の日、親子料理の日、親子で教科書や新聞記事をもとに意見交換する日など、親子での学びの場を設定しましょう。

◇　家庭学習と学校での学習をつなぐため、学校で学習したことを生かす家庭での体験の場や機会をつくりましょう。

（４）情報化社会への対応

情報化社会の進展に伴ったＳＮＳ等による有害な情報から子どもを守り、適正に活用する能力を高めるため、携帯電話・スマートフォン等の安全安心な利用について、家庭やＰＴＡ連絡協議会でのルールを作り、守らせましょう。

３　地域へ

【　上益城の現状と課題　】

○　国重要文化財の通潤橋をはじめ文化財・史跡も多く、六嘉湧水群・浮島など「平成の名水百選」に全国最多の８カ所が選ばれるなど自然も豊かで、学習教材や体験活動として活用できる資源が豊富にある。

○　平成２８年熊本地震によって、多くの方の尊い命が奪われ、家財や田畑・山林、公共施設、文化財など莫大な被害を被った。これらの復旧・復興には長い月日を要する状況であり、生活や就業等に大きな不安を抱える方も少なくない。

○　学校応援団の整備が進められ、学校支援活動（学校支援地域本部）、地域人材や関係機関と連携した地域学校協働活動（体験活動、交流活動、学習活動等）が行われている。

○　コミュニティ・スクール（教育委員会が設置する学校運営協議会）設置校１校、熊本版コミュニティ・スクール（学校が主体となる協議会）設置校１５校と増えている。地域と学校が協働する仕組みを設けていく必要がある。

○　児童生徒数の減少により学校統廃合が進み、校区が広域化している。

○　地域の高等学校の活性化への協力体制を確立していく必要がある。

【　提　言　】

（１）地域の教育力の向上

「〇〇町で育ってよかった」と思える子どもを共にはぐくんでいくため、地域の取組や子どもたちの頑張る姿を積極的に発信して、「地域の子どもは地域みんなで育てる」という気運を高めましょう。

地域の活性化に向け、地域の行事等へ子どもたちの参加を推奨しましょう。

（２）学校教育への関心・理解

子どもは地域の宝。次代や地域を担う人材を育てる学校であるという認識のもと、それぞれの地域にある学校に関心を持ちましょう。

地域の学校の様子を理解するため、学校の行事等に積極的に出席しましょう。

次代の地域づくりを担う人材を育てるために、地域の高等学校に対する理解を深めましょう。

（３）地域を活性化する学校教育への参加

自分の知識や経験、学びの成果等を学習支援、体験活動支援、環境整備支援、見守り支援など、「できる人が、できる時に、できること」を旨に“学校支援ボランティア”として積極的に発揮しましょう。

地域学校協働活動や放課後子供教室での活動内容の中に、学力向上の視点を取り入れましょう。

学校支援の輪を広げるとともに、生涯学習の視点に立って次代を担うボランティアを育成しましょう。

4　教育行政並びに校長会・教頭会、教科等研究会へ

【　上益城の現状と課題　】

〇　各町教育委員会、上益城教育事務所、校長会、退職校長会等が連携して、上益城の教育振興に協力して取り組んでいる。

〇　教育事務所は各種の資料を一層わかりやすくまとめて提示する必要がある。

〇　各町とも教育の重要性を認識し、そのことが予算などにも反映されている。

〇　校長会や教頭会でも課題解決を目指して自主研修を行っているが、学力向上に絞った研修はなされていない。

〇　各教科等で年間数回程度実施している上益城郡教科等研究会は、その内容をさらに焦点化する必要がある。

〇　教員の大量退職期に入り、教育活動の要となる教頭や主幹教諭等の育成、資質向上が喫緊の課題である。

【　提　言　】

◎　熊本県上益城教育事務所

（１）管内の現状や課題について、分かりやすい情報の提供を行いましょう。

（２）リーダー育成及び中核となる教員の研修の充実を図りましょう。

（３）校内研修の充実に向けた支援の充実を図るとともに、授業改善のための情報提供に努めましょう。

◎　各町教育委員会

（１）中学校区内の学校間の連携を促進し、子どもの学力向上を図る環境を整備しましょう。

（２）全ての学校でコミュニティ・スクールや熊本版コミュニティ・スクールを導入し、地域と学校が協働して取り組む体制を構築しましょう。

（３）様々な家庭環境の子どもが自学自習する習慣を育むために、関係部局と連携して放課後の学習を支援（放課後子ども教室の設置等）しましょう。

（４）中核となる教員の育成を図る研修を行いましょう。

◎　校長会・教頭会、教科等研究会

（１）郡や町の校長会・教頭会において学力向上に絞った自主研修を計画的に行いましょう。

（２）上益城郡教科等研究会のさらなる活性化に向けて、次の視点で運営・組織等の改善を図りましょう。

◇　研修の成果が指導改善に繋がる授業研究

◇　研究の視点を明確に（焦点化）し、実践の検証を確実に行う共同研究

◇　上益城教育事務所等と連携・協力した授業研究

別紙様式

ＦＡＸ　０９６－２８２－０７７１
上益城郡教育委員会連絡協議会事務局長　宛

「確かな学力」の育成に関する提言案への意見

記載者氏名（　　）
記載者の所属または小学校区名等（　　）

◎　全体的に

◎　[redacted]の記載について

◎　その他

７月１日（土）～７月３１日（月）の期間内にＦＡＸ送信ください。
頂戴した意見は、提言を検討する際の参考とさせていただきます。
意見に対する個別の回答はしませんので、ご了解ください。